

審判講習会報告書

埼玉県女性日本公認審判講習会		担当者: 小柳幸子・竹澤友美	
日時	2015年2月11日(水・祝) 9時15分～17時15分		
場所	埼玉県立大宮東高等学校		
講師名	山崎人志氏 安西郷史氏 北島寛臣氏 小柳幸子氏 竹澤友美 (埼玉県指導委員)		
講習会名	平成26年度 女性日本公認審判講習会		
対象者	日本公認 53人	参加者 24人	
開閉講式	開講式	有	閉講式 有
報告事項(講義の内容、講習会形式等)			
○開講式: 山崎人志氏 女性講習会を始めた意義を考え、時を経て変化している講習会のあり方を感じ、有意義な講習会にしてほしい 柴崎久美子氏 各連盟の女子決勝を女性審判で担当することを目標に、コート上で踏ん張れる審判が増えてほしい 指名強化普及紹介:八木氏 関東講習後、周りから見られているという良い緊張の中で活動ができています 九里氏 関東講習では恐さを感じた。気持ちはずっと前へ進めるようになり今後も努力を続けていきたい			
○レクチャー:安西郷史氏 【より良い判定のために】 より良い判定のために・・・バスケットボールの理解、見極め。では悪い判定とは「～だろう」と悪い位置からの判定 そうならないために4原則を使って確認できる位置取りをする ・リード・・・受ける、ズれる ・トレール・・・リードが判定できないものをすべて判定する いつ右に行くかではなく見に行くものがあると自然に右に行く、左に重要なものがあれば自然に左に行く。右に行くからといって左を捨てることではない。 ゲームで大切なことは「CONTROL」そのために「FEEL」そして様々な情報をINPUTしコートでOUTPUTすること グレーゾーンの判定・・・吹かないということはすべて白ということになる ゲームを【始めて→進めて→終わらせる】堂々巡りではなく次への第1歩である。みなさんががんばりましょう!			
○分解練習: ハーフコート 1on1			
<p>Lは stayか右へいくか判断する シュート→リバウンド連続した動き Tは 下りるだけでなく中へ踏み込み スペースを捉える</p>		<p>1つの動きの例として エリア1へ ボールが動き ローポストへ パスが入るか スクリーンから エリア5の ゴール下に パスが通るか 判断する</p> <p>Lは stayか右へいくか判断する 右へいくときも左をすてない Tは 下りるだけでなくパスの後の カッティングにも目を当てる</p>	
○モデルゲーム 大宮東高校 対 川口総合高校 主審:小柳幸子氏 副審:九里亜紀氏			
実際のゲームを全員で見学し、その時々2人の視野分担、フリーオフィシャルの役割、試合中に確認することなどを解説しながら進めた。			
○ゲームを使った実践講習 協カチーム:大宮東高校・川口総合高校・浦和西高校・淑徳与野高校・八潮南高校 ・山崎氏に実際に吹いていただき、ゲーム中の位置取りや判定を示していただくことができた。 山崎氏からの講評:視野が狭くなると瞬間的に笛を吹いてしまうことがある。広くPlayを捉え長く見ることが大切である。 ・北島氏に実際に吹いていただき、ゲーム中のディレクションや立ち振舞いの見本を示していただくことができた。			
○閉講式 山崎氏:今日の講習会で自分の足りないことに気づき、今後の活動でその課題にチャレンジしてほしい。年1回の講習だが切磋琢磨してますますたくさんの方に活躍してもらいたい。			
特記事項、要望等			
参加人数は県内の女性日本公認53名中24名(当初27名予定)であった。現在、産休・育休や仕事の都合により審判活動を休止している方を除き、普段から審判として活動している方の人数としては8割弱の参加となりました。今年度は県内指導委員のお力をお借りし、内容も多面的に充実した講習を行うことができた。今後も交流の機会にとどまらず、技術向上を図っていきたい。開催にあたり各審判員へご周知いただいた審判長の皆様、集約や受付等お手伝いいただいた指名強化普及審判員の皆様、お忙しい中にも関わらず貴重な1日を講習会のために調整していただき、熱心にご指導いただきました講師の皆様にご心より感謝申し上げます。また、多方面の手配や準備から運営、片付けまですべてにおいて熱心にご協力いただきました、高島先生をはじめ大宮東高校の皆様にも厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。			